

授業科目	臨地実習Ⅱ (2019 年度入学生)				単位	2
履 修	選択	関連資格	管理栄養士 栄教一種免		ナンバリング	NT32302J
開講年次	3~4	開講時期	後期・前期	該当DP	DP1-1 DP1-2 DP2-1 DP3-1 DP4-1 DP4-2 DP5-1	
担当教員	西村 貴子					
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>本実習は、実践活動の場での課題発見(気づき)、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識と技能を修得することを目標とし、2 または 3 週間、医療施設(病院)での実習を行う。学外での実習を授業の中心に位置付け、主として実践的教育から構成される。実習中の直接的指導者は病院管理栄養士であり、実務者教員として、臨床の場において必要とされる実践的な栄養管理の知識・技術を教授する。その事前学習として、病院に従事する管理栄養士の業務内容を整理する。また、事前指導として、事前オリエンテーション、事後指導として、実習報告会を開催し、実体験で得た病院での栄養管理のあり方について、総合的な理解を図る。</p> <p>実習項目は、以下のとおりである。</p> <p>[一般事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.病院および施設の概略 2.栄養部門の概略 3.チーム医療の実際 4.クリニカルパスの実際 5.施設栄養食事基準の実際 6.患者・入所者への接遇の注意・指導 <p>[臨床栄養管理]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.患者や入所者の栄養問題のスクリーニング 2.身体計測・臨床検査値を基にしたアセスメント 3.患者の栄養ケアプランの作成(栄養管理計画書の作成) 4.食事摂取量の把握と評価 5.患者の栄養状態のモニタリング 6.診療録の記入方法に関する実習(POS 等) 7.医療スタッフとのカンファレンスや病棟回診への参加 8.入院患者および入所者の栄養指導(個人・集団) 9.外来患者の栄養指導(個人・集団) 10.経腸・経静脈栄養の投与の実際 11.症例をとおしての栄養管理の実際(検討会への参加または発表) 12.NST または褥瘡回診の実際(講義または見学) 13.嚥下機能評価の実際 14.リスクマネジメントの実際 <p>[給食経営管理]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.嗜好調査とその分析 2.喫食量調査とその分析 3.食数管理、食事オーダ管理の特徴 4.食事の温度管理の実際 5.調理や盛付作業の人員配置と精度・作業管理の調査 6.衛生管理・衛生教育・危機管理・HACCP 7.経営ビジョンと給食業務の実際 					
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療施設における栄養管理の意義、方法について理解し、説明できる。 2. 栄養ケアマネジメントを理解し、実施することができる。 3. チーム医療を行うための基礎知識とコミュニケーション能力を修得できる。 					
達成度評価						

評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口 頭、プレ ゼンテー ション)	レポート 外の提 出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	30	10	10	50	100	
知識・理解 (DP1-1)						5	5	
知識・理解 (DP1-2)					10	10	20	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			10			10	20	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)			5	10		15	30	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)						5	5	
態度(DP4-2)			5			5	10	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)			10				10	
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
標準的レベル 1～3 の全てを達成したうえで、これまでに学んだ専門的知識および技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき能力について理解し、修得することができる。				1. 医療施設における栄養管理の意義、方法について理解し、説明できる。 2. 栄養ケアマネジメントを理解し、実施することができる。 3. チーム医療を行うための基礎知識とコミュニケーション能力を修得できる。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)		
1	<事前学習> ・第1回オリエンテーション ・実習の目的、実習に対しての心構え等について説明する。 ・事前学習ノートを作成指導する。	講義・演習		予習:事前学習ノートを作成し、実習項目すべてについて、整理し、まとめる。 復習:事前学習ノートの添削に従い、より深く調査し、まとめる。		120 120		
2	<事前学習> ・第2回オリエンテーション ・実習ノートの使い方、腸内細菌検査、病院での接遇等について、説明する。	講義・演習		予習:実習にあたり、これまでに学んだ知識を整理し、まとめる。 復習:実習に対する心構え、知識および技術について、再度確認する。		120 120		
3	<事前打ち合わせ> ・実習施設へ事前訪問 ・実習における確認事項のまとめ、報告を行う。	演習・実習		予習:実習にあたり、実習先施設及び栄養部門の概略を調べ、まとめる。 復習:確認事項をとりまとめ、課題の進行を確認する。		60 60		
4	<事前学習> ・第3回直前オリエンテーション ・実習にあたっての各自の目標を確認する。	講義・演習		予習:実習にあたっての目標を設定し、課題をまとめる。		360 360		

	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての礼節、職業倫理、実習の取り組み方等について、説明する。 ・持参物、実習施設より提示された課題について取り組み、確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> 復習:実習に対する心構え、知識および技術について、再度確認する。 	
5	<p><実習施設での実習> (2~3 週間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の指導担当者の助言・指導に基づき、積極的に実習へ取り組む。 	講義・演習・実習	<ul style="list-style-type: none"> 予習:実習計画を参照し、事前学習を行う。 復習:実習内容を整理し、実習ノートにまとめる。理解できなかった内容は自己学習し、知識を整理し、翌日の実習に備える。 	60/日 120/日
6	<p><事後指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事後報告会 ・実習中、実践活動の場での課題発見(気づき)と必要な知識・技術について、事後報告を行う。 ・特に、自ら設定した目標設定と課題、およびその解決について発表する。 	講義・演習	<ul style="list-style-type: none"> 予習:実習内容をまとめ、発表資料を作成する。 復習:実習ノートをきちんと整理し、実習の自己評価を行った後、実習ノートを提出する。 	120 120
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				

24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	本実習は、実践活動の場において、管理栄養士として必要な実践的な栄養ケアの知識・技術を総合的に学ぶため、これまでに学んだ専門科目の十分な知識および技術を必要とする。			
テキスト	福岡県栄養士会監修:「病院栄養管理の基本と実際」(福岡県栄養士会)			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	必要に応じて、資料を配付する。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	<p>臨地実習 2 は、管理栄養士国家試験受験必須科目です。そのため、実習のための要件科目が設定されています。本実習は、臨地実習 1、栄養治療学 1・2、臨床栄養管理学、栄養教育論 1・2、栄養カウンセリング論、臨床栄養学実習、栄養教育論実習 1・2、公衆栄養学 1・2、公衆栄養学実習の単位を全て修得しておかなければ履修できません。</p> <p>また、臨地実習 2 に臨むにあたり、これまで受講した各教科について十分に復習し、傷病者に対し、“管理栄養士”としてどのような栄養管理を行うのかについて、各自でテーマを設定、十分な事前学習を行い、疑問を解決することのできる能力を養いましょう。</p>			
達成度評価に関するコメント	評価については、授業の中で説明する。『その他』は実習施設からの評価とする。			